

しらかば

2016年夏号 第33号

北海道中国帰国者支援・交流センター

〒060-0002 札幌市中央区北2条西7丁目かでの2・7

電話 011-252-3411 FAX011-252-3412 URL: <http://www.hokkaido-sien-center.jp> E-mail: hokkaidocenter@dosityakyo.or.jp

ぼくじょうたいけんりょこう 牧場体験旅行

ソーセージ作りに奮闘

6月13日(月) 中国・樺太帰国者53名のみなさんで、千歳市にある箱根牧場に行きました。箱根牧場では、バター、チーズ、ソーセージづくりや、乗馬、動物とのふれあいなどが体験できます。残念ながら当日は天気に恵まれず、小雨と風の中での牧場体験となりました。

牧場に着くと、まずは体験工房で牛肉のソーセージ作りを体験しました。羊の腸の口の部分を採ったり、ひき肉をスタッファーと呼ばれる道具を使って腸に詰めていく作業は慣れるまではなかなか難しく、腸が破れてしまったり、空気がかり入ってしまったりと、皆大騒ぎしながら一生懸命に取り組んでいました。



ソーセージを作り終えて工房内で焼してもらっている間にお昼ごはんとなり、輪になって持ってきたお弁当をひろげる人もいれば、牧場の中のレストランで食事をした人もいました。レストランのメニューは、すべて牧場で生産された新鮮な食材を使ったもので、利用した帰国者の間では、



ステーキが特に好評でした。

悪天候のため、乗馬や牧場を巡るカントリーバス体験は中止になりましたが、昼食後もみなさんは売店で買いものをしたり、厩舎やウサギ小屋を見学したりしてのんびりと過ごしていました。

一生懸命作ったソーセージは、帰りにお土産として配られました。樺太帰国者は、日本のハムやソーセージは甘みがあっておいしくないと言いますが、今回のソーセージはしっかり塩気が効いていたようです。とはいえ、味については賛否両論でした…。

箱根牧場のように、牧場としての仕事のほかに、作物を加工して売ったり、レストランを経営したりする取り組みのことを6次産業化といいます。樺太帰国者のAさんは、ロシアではほとんどの場合、酪農家は酪農だけをやっていて、箱根牧場のような多角経営は珍しいと言っていました。雨のせいで、存分には楽しめなかったかもしれませんが、ちょっぴり社会勉強になった牧場体験でした。



サハリン(樺太)および旧ソ連地域残留邦人のための共同墓所(慰霊碑)

落成記念式典

NPO法人日本サハリン協会

樺太帰国者の共同墓所が実現



樺太帰国者の共同墓所が札幌市南区に完成、5月14日、落成式典が行われました。共同墓所は、NPO法人日本サハリン協会が昨年4月から計画を進め多くの支援者の募金を集めて1年で実現する運びとなりました。式典には、帰国者、支援者、一時帰国事業で帰国していた帰国団のみなさんあわせて120名が参列しました。来賓には、高橋はるみ北海道知事、工藤広 稚内市長、サハリンに日本人会白樺会長、セルゲーエフ・ミハイルロシア総領事、本センターからは齋藤所長が参列しました。

祖国への思い、安らかに眠る場所

落成記念式典で、同会齋藤会長は魂を慰霊し集まれる場所とあいさつ。来賓を代表して高橋知事は共同墓所が「同胞を偲び北海道とサハリンを結ぶ心の架け橋」とあいさつしました。

この日、共同墓所には稚内の故金本登さんと故金川英男さんの遺骨が納められました。家族の



みなさんは、安らかに眠る場所ができ安心したと語っていました。共同墓所には故人の写真や記念品などを納めるポストも設けられました。宇藤百合子さん(84)は、帰国を果たせずサハリンで亡くなった

母親の写真のポストに収めて、お母さんの魂も故郷に帰れたと「これで安心した。気持ちが落ち着いていた」と語りました。

歴史を後世に伝える記念碑

式典で感謝の言葉を述べた植松キクエさん(92)は「サハリンで苦労したみんなといっしょに入れるお墓ができたことは心からありがたい」と思いを語りました。墓碑には、北海道とサハリンを自由に行き来するカモメが彫られ、亡くなった人々の魂のふるさとサハリンと祖国の往来を象徴しています。共同墓所は樺太帰国者の歴史の事実を後世に伝えていく記念碑ともなりました。

帰国者問題理解のための普及啓発事業

地域に根ざした取り組みを

これまで、全国で年に1回厚生労働省主催による「中国残留邦人等への理解を深めるシンポジウム」が開催されてきましたが、今年から各センターが中心になって、地域ごとに残留邦人への理解のための催しが開かれることになりました。

本センターでは、昨年まで実施してきた帰国者文化祭を、地域の人に参加してもらい、帰国者について理解してもらう機会となるよう計画中です。詳しい内容はまだ未定ですが、文芸発表、帰国者による体験談の発表や、帰国者問題に関する講演などのプログラムを予定しています。



